

令和 8 年 3 月 25 日

東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所**環境試料(松葉)の採取地点の範囲拡大について(案)**

現行の松葉採取地点のうち発電所南側について、近年、松食い虫の影響で松の数が減っていること、並びに気象観測所周辺の松の樹高が高くなり、風向及び風速の測定に影響を与えたため松を伐採したことで、核種分析に必要な採取量を確保することが困難になっている。

そのため、発電所南側の松葉採取地点の範囲を拡大することで安定的な調査の継続を図ることとし、現行の松葉採取地点と拡大する松葉採取地点の松葉中放射能濃度の並行測定を以下のとおり行った。

また、樹木には土壌中の放射性セシウムを経根吸収するという性質があるため、松葉を採取したエリアにおける土壌の Cs-137 濃度の比較測定を行った。

1 並行測定期間

令和 6 年度第 4 四半期～令和 7 年度第 3 四半期

2 松葉採取地点及び測定結果

現行及び拡大する松葉採取地点と土壌の Cs-137 濃度及び K-40 濃度を図 1 に示す。また、松葉の Cs-137 濃度の並行測定結果を表 1 に、推移を図 2 に示す。

並行測定の結果、採取した試料からは、人工放射性核種として Cs-137 のみが検出された。

また、令和 7 年度第 2 四半期及び第 3 四半期の窪地を除く採取拡大地点の松葉の Cs-137 濃度は 0.068～0.093 Bq/kg 生であり、現行の松葉採取地点より高めに推移しているが、現行の松葉採取地点における発電所南側の直近 5 年の測定値の範囲内であった。

一方、令和 6 年度第 4 四半期及び令和 7 年度第 1 四半期の窪地を含む採取拡大地点の松葉の Cs-137 濃度は 0.18～0.19 Bq/kg 生であり、発電所南側の直近 5 年の測定値の範囲を超えた。

この原因として、松葉採取地点の一部が雨水などの溜まりやすい窪地になっており、土壌の Cs-137 濃度が他のエリアより高い 30～37 Bq/kg 乾であったことから、松葉の Cs-137 濃度も高くなったと推定する。

以上より、現行の松葉採取地点に加え、今回検討した拡大範囲を含めた地点を松葉採取地点とする。なお、周辺環境放射線監視調査における放射性物質の蓄積状況の把握という観点から、窪地についても松葉採取地点に含めることとする。

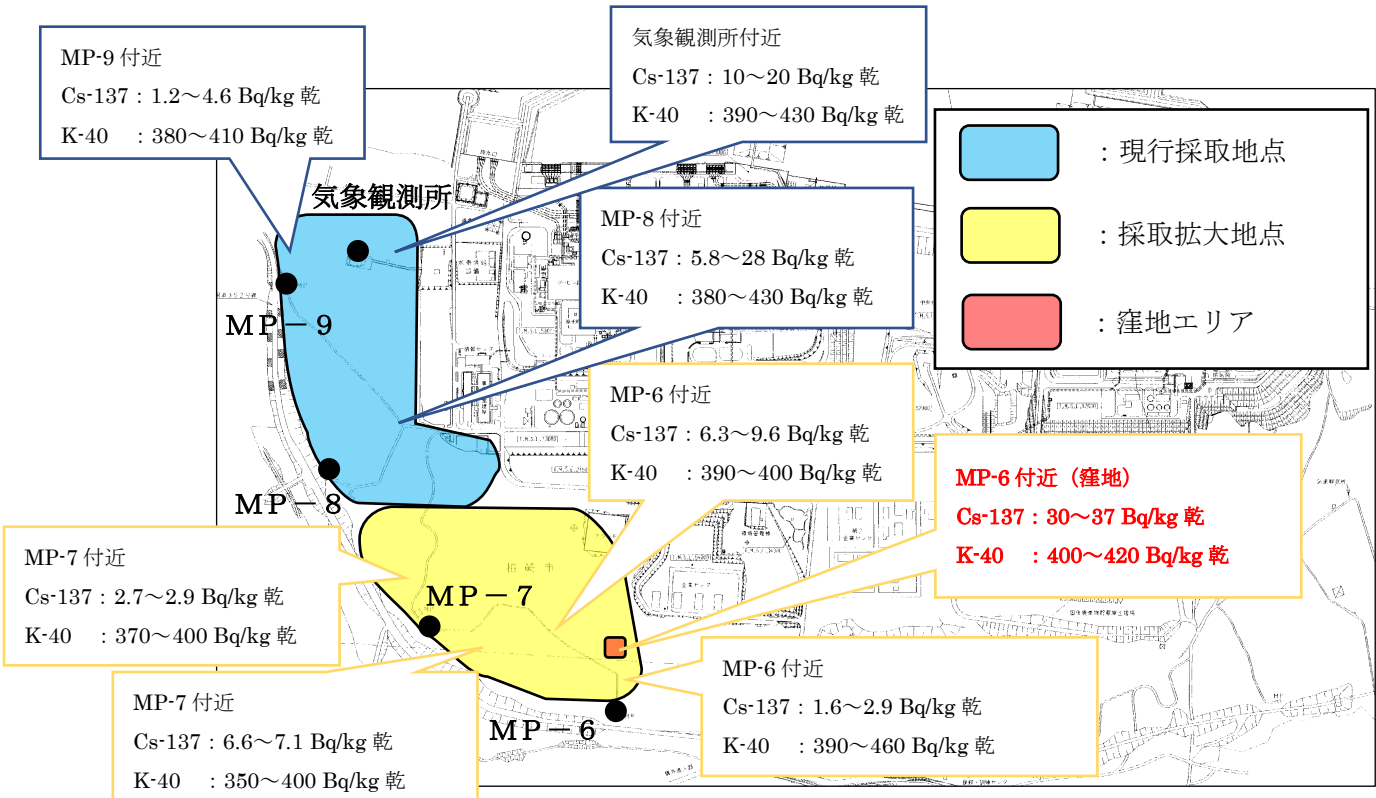


表1 松葉のCs-137濃度並行測定結果

a. 令和6年度 第4四半期 (単位: Bq/kg 生)			
測定地点	採取年月日	測定値	直近5ヵ年の測定値の範囲 ^{※1}
現行採取地点 (MP-8, MP-9, 気象観測所)	令和7年3月4日	0.043±0.009	0.029~0.12
採取拡大地点 (MP-6(窪地含む), MP-7)	令和7年3月4日	0.19±0.01	
b. 令和7年度 第1四半期 (単位: Bq/kg 生)			
測定地点	採取年月日	測定値	直近5ヵ年の測定値の範囲 ^{※1}
現行採取地点 (MP-8, MP-9, 気象観測所)	令和7年5月15日	0.039±0.010	0.029~0.12
採取拡大地点 (MP-6(窪地含む), MP-7)	令和7年5月15日	0.18±0.01	
c. 令和7年度 第2四半期 (単位: Bq/kg 生)			
測定地点	採取年月日	測定値	直近5ヵ年の測定値の範囲 ^{※1}
現行採取地点 (MP-8, MP-9, 気象観測所)	令和7年8月14日	0.051±0.008	0.029~0.12
採取拡大地点 (MP-6(窪地除く), MP-7)	令和7年8月14日	0.068±0.009	
d. 令和7年度 第3四半期 (単位: Bq/kg 生)			
測定地点	採取年月日	測定値	直近5ヵ年の測定値の範囲 ^{※1}
現行採取地点 (MP-8, MP-9, 気象観測所)	令和7年11月7日	0.032±0.008	0.029~0.12
採取拡大地点 (MP-6(窪地除く), MP-7)	令和7年11月7日	0.093±0.008	

※1 直近5ヵ年の測定値の範囲は令和2年度~令和6年度の発電所南側の現行採取地点の値である

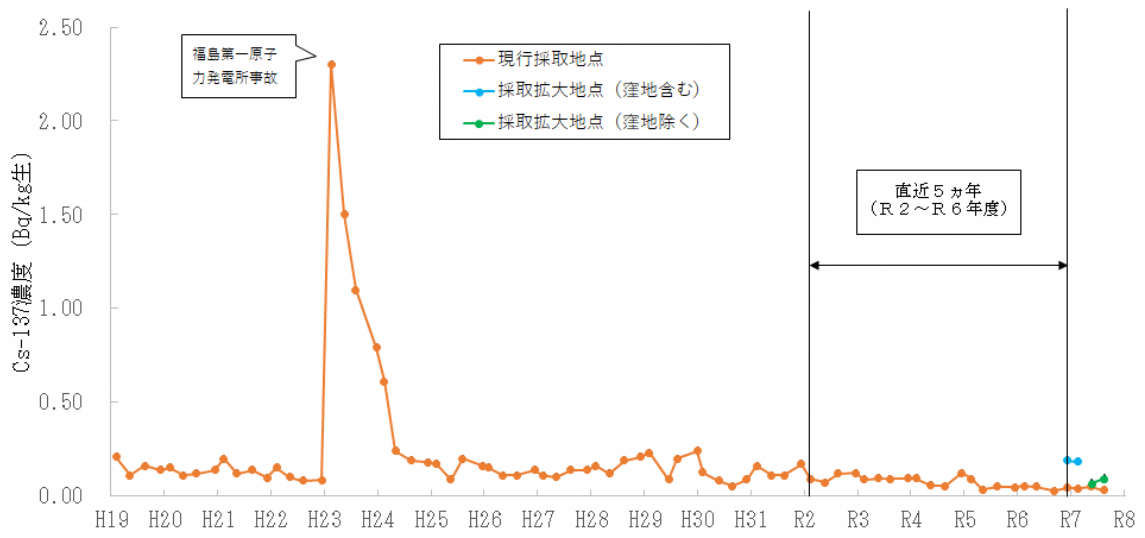


図2 発電所南側の松葉のCs-137濃度の推移

以上